

■高6回

卒業70年を祝福する6期生
 猖獗を極めた新型コロナウイルスも、令和5年5月8日から扱いが5類へ変更、各種の集会イベントが心置きなく開かれるようになった。

6期生同期会総会を、毎月第3水曜日に元気で集まる仲間（三水会）を軸に、4月17日、卒業70周年を迎え全会員に呼び掛けて新宿三平会館において開催した。参加したのは三水会16名、故郷から足を運んだ4名の計20名。写真。卒業60年を祝ったのが平成26年で47名の出席だった。あれから10年が過ぎたのだ。

今回、代表幹事は座光寺の佐々木満治君。初めに平澤正通君の先導で物故者二百余名に向けて黙祷をささげた。飯

田から参加した福沢亀人君、飯田では四水（毎月第4水曜日）会を開催している。直近では3月26日開催、参加者は9名、それぞれ元氣だとのこと。合わせて乾杯の音頭をとった。懇親会に入る前に幹事から本会へ寄付を安藤長正君から頂いたことが報告された。

互いに近況を話し合う中で久保敷秀男君が三水会の今日までおよそ20年近い歩みと現況報告、諸案内を行った。本会の後にも話題は尽きないだろうと2次会の開催案内を熊谷直孝君が連絡した。

出席者全員の発言機会が与えられた。次々と近況を主題に日頃の生活ルール、所感などを話題に発言した。飯田の環境が変わりつつあること、

直前まで夫人同伴で出席と予定していたこと。

印象に残ったのは、長男を亡くし一時生きる氣力を失ったことの報告だった。

長生きを目標によく動き関心を広く巡らせ好きに自由に暮らすこと、そしてこの同期会出席を喜びとすること、それぞれの語り口は異口同音、90歳、100歳に向けての生きる指針を喋った。

続いて中田俊実、嶽野功行、平澤正通3君によるハーモニカと歌唱のアトラクションは会の明るい雰囲気益々盛り上げてくれた。



（前列右から）福沢康人、下原喜好、久保田陸海、尾関秀雄、奥村勝亮、久保敷秀男、熊谷直孝、佐々木満治（後列右から）田中正臣、木下昌和、林史欣、市瀬陽勇、平澤正通、中田俊実、福沢亀人、嶽野功行、久保田清、清水邦人、沢柳豊、水上寿英

た。次年度代表幹事の挨拶は嶽野功行君。野球部の福沢康人君が当時の名捕手の意気込み其のままに校歌、「信濃の

国」の合唱音頭をとった。閉会は奥村勝亮君の挨拶。続いて部屋を替えて2次会。14名が参加。これまた大賑やかになった。ここでは郷里の動き、郷里で頑張っている仲間との思い出、現状の情報が飛び交った。

傍らに世に亡き友がいる如く思い出語る時を忘れてしまったのが夕刻5時過ぎ。（林 史欣／記、田中正臣／撮影）

■高9回

10名の精鋭部隊が颯爽と集結
 2024年5月29日（水）

13時から15時まで、市ヶ谷アルカディアにて、関東地区を中心とする高9回同期会が行われた。台風1号情報があり天気が心配だったが、好天に恵まれ一安心でした。前号『稻穂・第20号』にも書いた



写真の精鋭部隊は（後列左から）原俊夫、吉川喜八、北田武司、横川俊夫、唐沢民雄（前列左から）桜井勝実、吉田多枝子、細田和子、三石善吉、富田玲子

ように、「引き続き連絡請う」23名、及び23年出席の13名、計36名に連絡し、最終的に10名が出席した。

この10名の精鋭部隊は、80歳代半ば過ぎとは思えないほど、颯爽として元氣で、全員の近況報告を中心に話が弾み、元氣に毎日を送っている様子に感動した。特に北田君と横川君の「愛猫物語」、猫

も貴重な家族の一員との不思議な世界、興味津々でした。さて最後に来年度はどうしようかという話に移り、連絡用の返信ハガキでは、同期生の中にはもうこの辺で終結宣言を出したらどうかという意見も出てきていたが、この10名の精鋭部隊は、些かもそのような話はず、場所を変えて「飲み会」を中心としたらどうか、という方向に話が流れ、新たな会場を探してみることにになった。というような状況で、たちまち制限時間の2時間がたち、大慌てで集合写真を撮った次第。

ともあれ来年度も「引き続き連絡請う」23人、

23年出席者と24年出席の10名の精鋭部隊には重複があり全15人、合計38人に連絡すること、及び新しい会場の開発、かつ念の為此のアルカディアも押さえておくこと、来年もぜひ元氣で再会することを約して閉会とした。（三石善吉／記）

■高10回

4年ぶりの同期会は、まさに「青春」の集いに!!
 在京の高10回「十松会」の同期会が、令和5年11月27日に御徒町の吉池本店にて開催されました。

コロナ禍の影響もあり4年ぶりの集いになりましたが、幹事の皆さんの並々ならぬ尽力により、予想を上回り21名が出席。和やかな雰囲気の中、盛大に開宴となりました。

近況報告は年齢的に病氣、体調、家族の話題が多い中で、



館長退任記念展で説明する滝澤君

ました。
これを機に飯田35会では年例会を5月9日に設定。総勢29人（うち東京勢5人）の参加のもと、滝澤君の解説による記念展の鑑賞会を経て、同市今宮の料亭「半平」で例会・慰労懇親会を行いました。
飯田35会では、飯田での卒業周年事業（5年ごと、最近では60周年）の企画・運営だけでなく、県や市の支援も得て7回に及ぶイベント「華齢なる音楽祭」の立ち上げ・運営の大半を担ってくれまし

■高14回
昭和37年卒業の仲間たち
《通称37会》
新年会語録・あれから62年

（福島茂喜／記）
今後とも東京35会としては、飯田や他の地域の35会との連携をさらに強めていきたいと思っています。

た。
また、メンバー伊澤宏爾君が理事長を務めるNPO「ふるさと南信州緑の基金」がカンボジアに小学校を寄贈しようという活動にも協力し、完成した「飯田小学校」がこのほど公立に昇格しました。
飯田35会の皆さま、このたびは素晴らしい会をありがとうございました。残された日々の少なさを思うと、できるだけ多くのこうした機会が持てるとうれしいと思います。
今年もグループラインのメンバーのほとんどが集い、銀座で新年会をすることになった。1月23日当日とんと銀座に出ることもなくなつて迷子になると困るので、新橋駅で待ち合わせて、溝井悦子さんの絵画が展示されている画廊で全員集合ということになった。
ところが当の溝井さんが画廊の場所がわからなくなつてあつちこち歩いた末、ようやくたどり着く。先に到着組もいて、ヤーヤーヤーと言いつつ間もなく13人全員集合。しばし絵画を見てから、新年会会場のサッポロビール園のビルにて1次会。お腹も空いていたので、飲んで、食べて話も弾み元気いっぱい賑やかに^(^^)。
昔、篠ノ井の姥捨て山に70を過ぎると捨てられたという伝説もありましたが、今は食



べ物も豊富で食品ロスが問題になっていく時代。人生100年時代だ！
2次会は松沢勇さんがスナックのママに連絡して早い時間から店を開けていただいた（と言う事は相当の顔効きと言うことかな？）。松沢さんに感謝します。ボトルも彼が提供してくれた様です。カ



ゴルフ、登山、水泳、畑仕事等の野外活動に精を出し、音楽、俳句、絵画、旅行と言っ

た趣味を享受し、さらには書道等の文化活動、地域交流、ボランティア活動に注力する等、まさにシニア人生いろいろと各々の持ち場で張り合いのある日々を送っている様子が披露されました。
早くして旅立った仲間にも柩を捧げると共に、それぞれの足跡に思いを馳せ、また、闘病生活を強いられている友への想いを寄せる発言に、同期の絆を感じ心に響くものがありました。
人生を豊かに過ごせて来られたのは、お酒が潤滑油として効用があったお陰と披露されるや、あちこちに歓談の輪ができ、若き声が飛び交い、雰囲気が一挙に盛り上がりました。
まさにサムエル・ウルマンの「青春」の詩の一節、「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を言う（略）」

頭を高く上げ希望の波をとらえる限り、80歳であろうと人は青春にして已む」が、彷彿された景が見えていました。話し疲れたタイミングを見計らって、幹事からリアル同期会は高齢の身を考えると、今回をもって最後にしたいとの提言がありましたが、あと一回やろうよ！との声が多く出て、来年もう一度実施する運びになりました。
久しぶりに旧交を温め心地よい疲労を感じながら、紅葉真っ盛りの上野の銀杏並木をぶらぶらし、西郷さんにご挨拶もして家路につきました。
（北原敏次／記）
■高12回
滝澤君ご苦勞様！
ご存じのように我が飯田高校35会（昭和35年・高12回卒）の在京支部「東京35会」のメンバー・滝澤具幸君は、飯田

市美術博物館館長を18年務めてきましたが、今年3月をもって退任しました。
彼は高校在学中から画才を発揮し、東京芸大大学院を修了してからも日本画の登竜門と言われる山種美術館日本画大賞展で優秀賞、MOA美術館岡田茂吉賞絵画部門大賞を受賞するなど日本画壇で認められ、武蔵野美術大学で教鞭をとりながら「創画会」を中心に衰えることのない創作活動を続けてきました。
その多忙な毎日の中で、18年間にわたり月に2〜3回、合計すると500回も、この館長職を果たすために飯田に通ってくれたことになりました。
それも作品の運搬を兼ねての車での往復は、大変なご苦勞だったでしょう。
この退任にあたり、記念作品展が5月まで同館で開かれ



月末には「桜を見る会」を新宿御苑で開催後、別会場で反省の宴の会をとの提案があり、結果採用され、3月26日が設定されました。

しかし、当日は大雨となり、「桜を見る会」は中止となりましたが、夕刻より始めた反省会には足元が悪い中、お互い生存証明を訴えるように多数の参加がありました。また、9月7日には暑気払いを予定している。

さらに来年は80歳を迎えるイベントとして、また一六会最後の全国大会を地元飯田での開催が予定されている。

(興津利夫／記)

■高17回
「喜寿を祝う会」を開催

昭和40年3月母校を卒業以来60年、我々も昨年从今年に掛けて満77才の喜寿を迎えた。昨年10月17日市ヶ谷のアルカディアにおいて、在京の仲間を中心にして「喜寿を祝う会」を開催。コロナ騒ぎで、集まる機会の少なかった昨今ということもあり、「中央線沿線の仲間」を中心に、喜寿の祝いをやろうという機運が盛り上がり、開催の運びとなった。飯田から4名の参加者を含めて52名が出席した。

最初に開会の挨拶を木下亮英君（A）、続いてご逝去され出席が叶わなかった仲間を

追悼し、高橋朝子さん（A）の音頭で黙祷を行った。本会の開催にあたり諸準備にご苦労された萩元久志君（E）が実行委員長・発起人代表として開催までの経緯とお祝いの挨拶があり、次いで飯田より参加を頂いた井出雅陽君（F）の乾杯の音頭、飯田駅100周年、リング並木、動物園の70周年など最近の状況の説明があった。

しばらく歓談の後、高橋朝子さんのピアノ演奏から始まり、町田俊雄君（G）の豊かなバスの独唱、唐澤豊君（A）のITの話などで賑やかに楽しく盛り上がった。最後の閉会の挨拶は、木村



稔君（A）。今回の開催にあたり、メールによる連絡体制の構築で便宜を提供してくれた。また、写真撮影にあたって

ラオケタイムとなり小生も久しぶりに声を出した。

和気あいあいと楽しい時間は過ぎるのが早いもので、じゃあーボチボチということとで解散。また逢う日を約束した訳ではないが、三々五々帰途に就いた。「又」と言う一言が重く感じられる。

元気で居なくてはと皆思っていた事と思います。

スナックのママの「今頃の80歳は若いわね」と言った一言が耳に残ります。こうして楽しい一日が終わったが、思えば以前は林泰さんと松下博さんが世話役の労を担ってくれていました。

今は小池淳平さんと堀越美智恵さんが三七会をまとめてくれています。本当にありがとうございます。感謝です。

(河崎 修／記)

■高15回
「東地区一期会」久し振り



に会えて楽しかったに！

4年振り、34回目のいちご会を開催。会の開催が許容されたとはいえ、参加人数を心配しましたが、これまで同様

の人数で楽しい会になりました。当初42名の希望者でしたが、開催日を忘れてしまった方もいて、39名。この歳になるとこうした事もあり、又多くの方が若き頃に比し、多少不自由になった身体をおしての参加でした。

在京以外からは、奈良・折井亮夫、名古屋・田島弥栄、飯田・今村美穂、静岡・伏見富士江さん達。

これまで同様、会場は、昔、三平ラーメンで有名であった新宿サンパーク。ここは諏訪出身の小林平三が起業し、その名から三平とした店です。長野県人の

よしみで、下伊那地区出身達が、会を多く開催しており、この日も同郷の方達が或る会を開催していました。今村毅夫さんの名司会で、会はスムーズに進み、参加者達の現状のお話を聞く事もでき、最後は共に校歌・応援歌を唄い、皆夫々、元気である事を実感、喜びとしました。

来春2月1日（土）に開催予定！是非、又、お会いしましょう！（佐々木康夫／記）

■高16回
恒例の新年会を数年ぶりに開催

在京の一六会（高16回）はコロナ禍でここ数年イベントの開催を控えていたが、今年1月27日、新年会を開催。久しぶりだったためか、二十数名の参加があり、思い出話にはずみ、楽しい一時を過ごした。終宴まぢかになると、3

では、新井恒男君（C）に終始お手数をお掛けした。また、一部の方々は、事前に、変貌著しい渋谷界隈を散策する機会もあり、楽しめた。

このほか、沢柳茂男君（B）、竹村忠君（C）、見目多栄子さん（D）、下平悟郎君（E）、大澤正子さん（F）、脇坂英文君（G）、宮本永子さん（H）の方々がクラス幹事として役目を担ってくれた。

また、コロナ収束に伴って、「中央線沿線の会」「赤石会」の集まりも再開。昨年末と新年に仲間の親睦を温め、今後とも年1～2回の開催を予定している。（脇坂英文／記）

■高21回 3年越しの

「古希の会」を開催

2023年12月1日（土）、昼神温泉「伊那華」において高21回生による3年越しの



古希の会（昼神温泉「伊那華」にて。2023年12月1日）

「古希の会」が、73名の参加のもとに盛大に開催されました。高21回の同期会は5年前の卒業50周年以来のこと。コロナ禍により延び延びになった「古希の会」ですが、学年代表の大蔵隆君による大変な努力により実現することが出来ました。



迎賓館見学（2024年2月29日）

来ました。参加者は13名でした。

迎賓館を見学（ハニーの会）
在京の高21回生有志が組織する「ハニーの会」は今年2月29日、迎賓館（東京都港区）を訪ね、見学会を実施しました。長年、ボランティアで迎賓館の案内役を務めている本間義孝君（ハニーの会）会長が、丁寧に館内を案内してく

迎賓館は嘗て紀州徳川家があった場所ですが、明治になって皇室に献上され、明治42年に東宮御所として誕生しました。現在は世界各国の賓客を迎える外交の舞台となっています。「朝日の間」「羽衣の間」をはじめとした豪華絢爛の内装・調度品や圧倒的迫力の天井画など、本間会長

の名解説を受けながら、迎賓館内の素晴らしさを満喫しました。見学後は御徒町の中華料理店で打上げを行いました。

人生100年時代といわれる中で、私達高21回生は後期高齢者を目前にしています。今のうちに積極的に同期会や同級会に参加し、残された余生を健康で楽しく暮らそうと、元気を交換しました。（大原 直／記）

■高22回

写真展「海のまなざし」

昨年、3年遅れで開催された卒業50周年記念事業の感動冷めやらず、二二会ではイベントが続いている。3月1日～5日には飯田創造館で杉山章君の写真展が開かれた。

テーマは「海のまなざし」。杉山君は小学生のころから生物好きで、大学は農学部



で生物学を学んだ。42歳でスキューバダイビングのライセンスを取得し、大学で教員を務める傍ら海の生物を撮り続けてきた。
潮岬や石垣島で撮った作品七十余点が展示され、300名の来場者があった。イソギンチャクから顔を出すクマノミⅡ写真Ⅱや色鮮やかなウミウシが見る者たちに語り掛ける。南信生まれの子供たちにとって海は未知の世界、湧き上がる疑問が次々と発せられ

る。楽しそうに答える杉山君は自分の子供のころを思い出しているようだった。

企画運営の全てを担った二二会の仲間は、来年3月に卒業50周年記念展覧会を計画している。（岩崎廣利／記）

■高23回 「楽しい会だよ」

「ニイサンカイ」は毎年6月の第1土曜日あたりにやっています。コロナ禍も終わり、今年も6月8日（土）に都内表参道にあるF組の村松孝尚君のお店で30回目の会が開かれました。飯田からもA組の松島信之君、C組の武井（旧姓・鋤柄）美登里さんが去年と同じように参加してくれたし、A組の折山淑美君、F組の河合健司君は初めて参加してくれました。

コロナをはさんでいます。が、年を重ねるうちに少しずつ



つ参加者が多くなってきたように思います。今年は30人も参加してくれました。また去年は残念ながら2名もの仲間の不幸を報告しなければならなかったのに今年はそんなことが無かったので安心しました。

こうして無事にみんなの顔

令和6年度 在京飯田高校同窓会定期総会のお知らせ

日時 2024(令和6)年11月9日(土) 13~17時(予定)

場所 アルカディア市ヶ谷(私学会館) 東京都千代田区九段北 4-2-25

内容 第1部 総会

第2部 講演会

- ◇「伝えたい飯田の魅力」 林 健吾氏(高39回) 飯田市役所企画部長
- ◇「南信州の未来～阿智村の取り組み 2016年11月の天皇后行幸啓～」熊谷 秀樹氏(高39回) 阿智村長

第3部 懇親会

- ・ 歓談：立食パーティー
- ・ 喜寿のお祝い(高18回)、写真撮影
- ・ 利き酒コーナー

卒業回早見表 卒業回／卒業年(3月)

中44回 1945(昭和20)年	高23回 1971(昭和46)年	高50回 1998(平成10)年
中45回 1945(昭和20)年※	高24回 1972(昭和47)年	高51回 1999(平成11)年
中46回 1947(昭和22)年	高25回 1973(昭和48)年	高52回 2000(平成12)年
中47回 1948(昭和23)年	高26回 1974(昭和49)年	高53回 2001(平成13)年
中48回 1949(昭和24)年	高27回 1975(昭和50)年	高54回 2002(平成14)年
高1回 1949(昭和24)年	高28回 1976(昭和51)年	高55回 2003(平成15)年
高2回 1950(昭和25)年	高29回 1977(昭和52)年	高56回 2004(平成16)年
高3回 1951(昭和26)年	高30回 1978(昭和53)年	高57回 2005(平成17)年
高4回 1952(昭和27)年	高31回 1979(昭和54)年	高58回 2006(平成18)年
高5回 1953(昭和28)年	高32回 1980(昭和55)年	高59回 2007(平成19)年
高6回 1954(昭和29)年	高33回 1981(昭和56)年	高60回 2008(平成20)年
高7回 1955(昭和30)年	高34回 1982(昭和57)年	高61回 2009(平成21)年
高8回 1956(昭和31)年	高35回 1983(昭和58)年	高62回 2010(平成22)年
高9回 1957(昭和32)年	高36回 1984(昭和59)年	高63回 2011(平成23)年
高10回 1958(昭和33)年	高37回 1985(昭和60)年	高64回 2012(平成24)年
高11回 1959(昭和34)年	高38回 1986(昭和61)年	高65回 2013(平成25)年
高12回 1960(昭和35)年	高39回 1987(昭和62)年	高66回 2014(平成26)年
高13回 1961(昭和36)年	高40回 1988(昭和63)年	高67回 2015(平成27)年
高14回 1962(昭和37)年	高41回 1989(平成元)年	高68回 2016(平成28)年
高15回 1963(昭和38)年	高42回 1990(平成2)年	高69回 2017(平成29)年
高16回 1964(昭和39)年	高43回 1991(平成3)年	高70回 2018(平成30)年
高17回 1965(昭和40)年	高44回 1992(平成4)年	高71回 2019(平成31)年
高18回 1966(昭和41)年	高45回 1993(平成5)年	高72回 2020(令和2)年
高19回 1967(昭和42)年	高46回 1994(平成6)年	高73回 2021(令和3)年
高20回 1968(昭和43)年	高47回 1995(平成7)年	高74回 2022(令和4)年
高21回 1969(昭和44)年	高48回 1996(平成8)年	高75回 2023(令和5)年
高22回 1970(昭和45)年	高49回 1997(平成9)年	高76回 2024(令和6)年

※中45回生は戦争の悪化により1年短縮され、4年で卒業(昭和20年)。戦後、5年制に戻り、大学進学希望者は中学5年に復学し、改めて卒業した。

が見られるのが、幹事の喜びであり楽しみでもあります。年齢も70代に入っており、卒業後50年以上もたっています。こうして毎年顔を合わせているといなくなるのが変なように思われてきます。

「あいつはどうした」とか「あの世にいつちまったんだ」とか言われそうです。そして「今度はあなたの番よね」などと冗談を聞くようなことも、そんな楽しい話に盛り上がりました。

そして会の最後には、写真を撮ってみんなで校歌を歌い、「下伊那の歌」までも歌った。案外おぼえているもんだ、伊那谷を思い出すことができたとってもよかった。いい歌です。

話はかわりますが、昨年からボケ防止に役立つと思い、スマホのラインを利用してこの会のグループを作っていました。

す。今現在このグループに入っている人が30名を越えまして、タイムリーな情報や、わからないことなどが解決出来たりと、情報交換にはもってこいですね。写真や動画だって表示できて、それが見られるのがいいですね。それも手軽にできるんです。みんな「友達」になろう！

それではまた来年も「ニイサンカイ」をやらまいか。みんな元気だな。楽しみに待つとるで。(原 泰／記)

■高43回
同窓生の皆さんへ
「ゴルフやりましょう！」
緑の芝生の上を歩きながら、同伴者と談笑し、また互いのショットやパットを褒め合いつつ、1日を楽しく過ごすこと。まさにゴルフの醍醐味です。ゴルフは老若男女を問わず、技術の巧拙を問



わず、季節も問わず、いつでも楽しめるスポーツです。

在京飯田高校同窓会員でゴルフを愛される方々、一緒にプレーしませんか。組織部会メンバーでもある賜昭宏、小澤純子(共に高43回)＝写真＝で、不定期に気楽なラウンド会を企画しています。ゴルフを一緒にするまでは高校時代も含めて全く付き合いがなかった同級生の我々ですが、ゴルフの魅力を通じて再び同

こちらのゴルフ会は、学年を越えて同窓会員の先輩、後輩の皆様にもご参加いただいています。一緒に頂けるとい方は、我々まで是非ご連絡下さい。経験豊富な賜、ドライバーを逆方向に打つ初心者だった小澤のコンビです。で、これからクラブを握る初心者の方でも大歓迎です。お待ちしております！

連絡先メールアドレス
賜 = tamol130tano@gmail.com
小澤 = junkoozawa92@yahoo.co.jp
(賜 昭宏、小澤純子／記)



級生の縁を繋いでいる次第です。